

平成28年(2016)5月15日

編集・発行
書学書道史学会
会報委員会

〒166-8531

東京都杉並区和田3-30-22
大学生協学会支援センター内

TEL : (03) 5307-1175

FAX : (03) 5307-1196

メールアドレス :

shogaku@univcoop.or.jp

コンプライアンスと研究倫理

河内 利治

澤田理事長から「いま大学に求められている」と学会あるいは学術との関係「または「学術に関するコンプライアンス(法令遵守)の気運」などについて執筆してほしいとの課題が提示されましたので、自身の経験を踏まえて2、3の事柄を書いてみます。

平成27年度より「コンプライアンス教育」及び「研究倫理教育」の一貫として、「科学研究費科eラーニング(CITI Japan)の受講」が義務付けられました。略称「CITI Japanプロジェクト」は科研費取得者のみならず、科研費取得者の所属機関長(公的研究管理責任者)も受講することが義務付けられています。ちなみに私の場合は、JST研究者コース(2015)カリキニラムを受講いたしました。必修受講科目は「責任ある研究行為について」「研究における不正行為」「データの扱い」「共同研究のルール」「オーサーシップ」「盗用」「公的研究費の取り扱い」の計7科目、オプション科目は「利益相反」「社会の情報発信」「ピア・レビュー」「メンタリング」の計4科目ですが、すべてネット上で行うものです。まず受講科目の文章を熟読してから、次に選択肢の正解にチェックを入れるという方式です。必修受講科目目8割正解で修了証が発行されました。

勤務校では、「コンプライアンス推進規程」に基づく研修が実施されています。

この研修は、毎年テーマを決めて継続的に実施するもので、平成26年度は「研究倫理」、平成27年度は「コンプライアンス(ハラスメント防止に関する)」「研修でした。近年、「いじめ・嫌がらせ」が問題となっており、厚生労働省労働局に寄せられる相談件数も増加しているようです。また職場における「パワー・ハラスメント」の定義も公表されました。このような世情から、パワハラ、セクハラ、アカハラ等のハラスメントに関する防止策が大学においても求められています。この研修は、ある企業から講師をお招きして、「学校現場におけるハラスメントの実情とその対策について」「あいまいな知識と当事者意識の欠如が招く被害」についてお話しくださるといふ大学独自のものでしたが、国から大学に求められているコンプライアンス研修でもありました。

また勤務校では、「研究活動の不正行為に関する規程」も定められました。これは「研究活動の不正行為への対応等に関するガイドライン」(平成26年8月26日文科科学大臣決定)に拠るものです。

このように現在、本学会の会員が勤務する大学および学術(科学研究費)に関しては、コンプライアンスと研究倫理が強く求められています。この気運は更に強化されることと思います。

そもそも科研費を不正使用することは有ってはならない筈ですし、本学会が属する人文科学の領域では、性善説に立つて諸規則や諸手続きが遂行されてきたと思われまふ。しかし今後は、日本全体がコンプライアンス、ハラスメント、さらにガバナンス等のカタカナ語によって支配される社会と向き合うことになりまふよう。

そのような社会において、第14期の役員は後掲の通り第13期の体制を維持して運営させていただくことになりました。研究局の報告にも書かせていただきましたが、特に若い会員諸氏が自身の研究を進められるよう、体制を整えていきますので、ともに研究成果を発表してお互いの叡智をもとに本学会の発展に協力ください。

(副理事長)

第27回 書学書道史学会大会開催のお知らせ

国内局

今年度の「書学書道史学会大会」は、10月1日(土)・2日(日)の両日にわたり、滋賀大学教育学部大講義室において開催を予定しております。

詳細および参加申込については、8月下旬に「大会のしおり」として研究発表のレジュメとともに「案内を差し上げます。また、HPでもお知らせいたします。現時点での概要は以下の通りです(この後、一部変更がある場合もございますので予めご了承ください)。
みなさま、多数のご参加をお待ちしております。



○理事会

【10月1日(土)】11時00分

滋賀大学教育学部講義棟教室(未定)

○大会

【10月1日(土)】

12時00分

受付開始

13時00分

滋賀大学教育学部大講義室

14時00分

開会式、総会

14時10分

研究発表(2〜3本)

15時50分

講演、又はシンポジウム

18時00分

懇親会

(於：滋賀大学教育学部生協食堂(予定))

【10月2日(日)】

8時40分

受付開始

9時00分

滋賀大学教育学部大講義室

12時00分

記念撮影、昼食

13時30分

研究発表(4本)

16時10分

閉会式

○会場へのアクセス

【JR石山駅・京阪電鉄石山駅から】

・京阪バス 52 53 54 系統

新浜(南郷中学校経由)行

大石(南郷中学校経由)行

南郷二丁目東(野々宮経由)行

南郷二丁目東(仙寿の郷経由)行

「滋賀大西門」下車 徒歩すぐ

・京阪バス 24 系統

新浜行、大石行

「滋賀大前」下車 徒歩7分

※料金は230円です。

※交通事情によりますが、バスの乗車時間はおよそ12、13分です。

※JR琵琶湖線の所要時間(新快速乗車の場合)

京都―石山：14分、草津―石山：7分、彦根―石山：35分

※近隣より自動車で来られる場合、駐車場もあります。

○宿泊施設について

役員、会員ともに、各自で手配願います。

JR石山駅周辺には宿泊施設が少ないので、JR琵琶湖線沿線駅(京都、山科、大津、草津など)周辺も含めてご検討ください。

〈お問い合わせ〉

滋賀大学教育学部国語教育講座

中村史朗(中村研究室)

TEL 077-5327-7724

メールアドレス shirou@edu.shiga-u.ac.jp

◎非会員の大会参加について

第27回大会より、会員が引率する非会員の大会参加費は1名無料となります。

今年度の「書学書道史学会大会」は、滋賀大学(教育学部大講義室)において、前掲のとおり開催いたします。会員各位、日ごろの研究成果について意欲的かつ積極的な発表を期待し、左記の要領で募集いたします。

記

① 発表日時・・・平成28年10月1日(土)・2日(日)

※時間帯は前掲参照

② 発表時間・・・各30分(発表20分、質疑応答10分)

③ 申込方法・・・電子メールにてお申し込みください。件名には必ず「書学書道史学会大会発表申込(氏名)」と明記し、「所属・氏名・連絡先」を記した上で、発表内容の題目と、発表内容の要旨をレジメ800字程度にまとめて添付してください。

事務局よりお願い

◆年会費について

本号に年会費納入用の郵便振替用紙が同封されています。年会費は、6月末日までに納入ください。また、平成28年3月現在、会費を滞納している方には、本年度分に滞納年度分を加算した金額が記載されており、速やかに全額をご納入ください。なお、3年以上滞納の方は、すでに導入されている「長期会費滞納者の自動退会(除籍)制」の適用対象となります。ただし、退会(除籍)適用対象者となった場合であっても、退会届提出の年度分までの合算額における学会費の請求権は消滅しません。本件に関して、会員台帳別表にて管理の上、適宜納入請求を続けることが総会にて決定されていますので、予めご了承下さい。

④ レジメ・・・原則としてワープロテキスト形式・ワード形式・1太郎形式のいずれかで作成し、電子メールに添付し送信してください。

⑤ 発表申込締切・・・平成28年6月30日(木)必着

⑥ 発表者の決定と連絡・・・大会での発表者は常任理事会で7月中旬に協議・決定し、採否を個別にご連絡いたします。

⑦ 8月下旬に「大会のしおり(含レジメ集)」を全会員へ配布いたします。また、ホームページでも公開いたします。

※大会の発表者については、学会誌『書学書道史研究』第28号(平成29年度秋刊行予定)への論文投稿申込があったものとして扱われます。改めて学会誌への投稿申込をする必要はありません。

※なお学会誌論文原稿の投稿締切は、平成29年3月31日

◆学生会員の「会員変更手続き」について

本学会では、学生会員の「有期会員制」を導入しています。この制度は学生会員(学生会費適用の方)が大学院を修了、または満期退学・中途退学、その他の理由により学籍を失った時(学生証の発給対象でなくなった時)に、「学生会員資格終了」とするものです。該当の方で、引き続き一般会員として留まる場合、必ず会員変更手続き(会員変更申込書)の提出が必要で、とりわけ、今春に学生会員資格を失った方は、至急手続きをお願いします。「会員変更申込書」は、学会ホームページからダウンロードできます。会員変更手続きにより、自動的に一般会員資格が付与されます。なお、「会員変更申込書」下の「紹介会員氏名」「役員推薦氏名」「理事会承認各欄」は、無記入で結構です。「会員変更手続き」を含め、その他の問合せや書

となっており、投稿された後、原稿掲載の採否は査読委員会で決定されます。

※このほか学会誌関連での不明な点は、大学生協学会支援センター内「書学書道史学会編集局」宛にて、電子メールでお問い合わせください。

〈発表申込先/問い合わせ先〉

Tel 03-5307-1175
FAX 03-5307-1196
shogaku@univcoop.or.jp

事務局

類送付先は、本会報一面の事務局(大学生協学会支援センター)内 担当・井手富士雄メールアドレス: shogaku@univcoop.or.jp へお願いします。

〈会員名簿の訂正や情報提供のお願い〉

昨年度、会員名簿が発行されました。会員各位の諸項目の加筆修正やご知友の会員の情報提供をお願いします。その他の問合せや情報提供は、本会報一面記載の
大学生協学会支援センター内 担当・井手富士雄
メールアドレス shogaku@univcoop.or.jp
へお願いします。

本学会選挙管理委員会は、第13期役員任期満了にともない、選挙管理規定に基づいて平成28年2月18日を投票締切日と定め、郵送による第14期役員選挙を実施しました。

開票作業は2月21日、杉浦妙子選挙管理委員長以下、選挙管理委員により、大東会館会議室において実施されました。投票状況については、投票有権者数520票のうち、有効投票数80票・投票率15%（平成26年度：106票・投票率21%、平成24年度：65票、平成22年度：47票、平成20年度：61票、平成18年度：92票）でした。開票結果を受け、同規程第6条により、以下の通り選挙選出理事10名、監事2名を当選者として確定しました。但し、当選理事の横田恭三氏の辞退により、笠嶋忠幸氏が繰り上げ当選となりました。投票結果は以下の通りです。

〈選挙選出理事〉（五十音順）

小川博章、笠嶋忠幸、菅野智明、河内利治、澤田雅弘、高城弘一、高橋利郎、富田 淳、中村伸夫、森岡 隆、杉浦妙子、名児耶明

◆第14期役員・幹事・諮問委員・選挙管理委員

第14期役員選挙の開票、当選者決定を受け、平成28年3月4日に選挙選出理事による緊急会議を開催し、理事長の互選と理事長指名理事10名を選出しました。これに続き3月13日に開催された臨時理事会において、各事業部局の分掌、諮問委員、選挙管理委員会委員を以下の通り決定し、第14期役員会等が発足しました。今期の役員・

幹事・諮問委員・選挙管理委員の任期は、平成28年4月1日から平成30年3月31日までです。（※は新任）

〈役員〉

【理事長】

澤田雅弘（大東文化大学教授）

【副理事長】

河内利治（大東文化大学教授） 研究局長

中村伸夫（筑波大学教授） 編集局長

【常任理事】

笠嶋忠幸（出光美術館学芸課長・出光佐三記念美術館

次長） 国内局長

高城弘一（大東文化大学教授） 事務局長

富田 淳（東京国立博物館学芸研究部長） 国際局長

森岡 隆（筑波大学教授） 学術局長

※小川博章（淑徳大学教授）

副事務局長・会報編集委員会委員長

菅野智明（筑波大学教授） 副編集局長

※高橋利郎（大東文化大学准教授） 副編集局長

【理事】

大野修作（近畿漢詩連盟） 副国際局長

柿木原くみ（相模女子大学教授）

副事務局長・会報編集委員会副委員長

萱のり子（東京学芸大学教授） 副国内局長

下野健児（花園大学教授） 副国内局長

鈴木晴彦（日本大学教授） 副学術局長

永由徳夫（群馬大学教授） 副研究局長

福田哲之（島根大学教授） 副研究局長

※矢野千載（盛岡大学教授） 副学術局長

【監事】

杉浦妙子（二松学舎大学講師）

名児耶明（五島美術館副館長・学芸部長）

〈幹事〉（各局五十音順）

国内局：石井 健 川畑 薫 谷口邦彦

丸山猶計 山口恭子 山本まり子

国際局：鍋島稲子 佐々木佑記

研究局：権田瞬一 角田健一

学術局：尾川明徳 高橋佑太 橋本貴朗

編集局：増田知之 ※成田健太郎

※六人部克典（前事務局幹事）

事務局：金子 馨 野中直之 藤森大雅

※亀田絵里香 ※田村南海子

〈諮問委員〉（五十音順）

安達直哉 荒金信治 大西克也 小川靖彦

押木秀樹 河野 隆 神野雄二 高木厚人

信廣友江 萩 信雄 宮崎洋一

〈選挙管理委員会〉（各五十音順）

委員長 杉浦妙子

委員 柿木原くみ 高城弘一 永由徳夫

委員 亀澤孝幸 ※野中直之

（以上、理事・監事枠より4名）

（以上、会員枠より2名）

国内局

別項にてご案内いたしました通り、本年度の大会は滋賀大学を会場として使わせていただけることとなりました。担当窓口を中村史朗先生にお願いし、大学の寛大なご協力の下、ほか近隣の学会員よりご支援を受けながら準備を進めております。意欲的なご発表ならびに会員多数のご参加をお待ちしております。

(国内局長 笠嶋 忠幸)

国際局

昨今の中国における書の研究は実に目覚しく、論文の発表・書籍の出版・展覧会の開催など、その旺盛な活動には驚かされるものがあります。紙媒体に掲載される優れた論考はもとより、インターネット上にも数々の優れた文章が発表され、特定のテーマを設定した興味深い展覧会も、次々と実施されています。国際局では昨年に引き続き、主に博物館・美術館で開催される書画に関する展覧会を中心として、さまざまな情報をご案内いたします。また外国からの研究者によるご講演などがありましたら、学会としても広く周知したいと思っておりますので、情報の提供にご協力ください。

(国際局長 富田 淳)

学術局

引き続き学術局を担当させていただきましたこととなりました。これまで何とか無事に務めることができたのも、十年間支えてくださった福田哲之副局長のおかげでしたが、このたびJ-STAGE主担当の副局長を矢野千載氏にお願いいたしました。橋本貴朗、高橋佑太、尾川明徳の幹事各氏も留任し、5月2日に学会誌25号をJ-STAGEに掲載いたしました。公開の折は学会ホームページでお知らせいたしました。

J-STAGEは平成23年8月にヒアリングを受けることから始まりましたが、当方と尾川幹事とともに科学技術振興機構に向いてくださった鈴木晴彦事務局長(当時)にも副局長をお願いいたしました。当初からの経緯を熟知しておりますので、折々にご助言をいただきます。

東洋学・アジア研究連絡協議会など、関連学術団体への対応も従来どおり報告いたします。なお、前号の会報でお知らせしました日本学術会議・日本学術協力財団・科学技術振興機構連携のデータベース学会名鑑(左記UR)が3月末日にリニューアルされました。今後は随時更新申請ができることになりましたので、登録情報変更の際は速やかに対応いたします。

ホームページ

<https://gakkai.jst.go.jp/gakkai/>



(学術局長 森岡 隆)

研究局

平成28年度の「助成金制度」についてお知らせいたします。

平成27年度までの「特定領域研究促進助成金制度」は、平成28年度より次世代を担う研究者の研究を促進することを目的として、「特定領域」をはずした「研究促進助成金制度」に生まれ変わりました。会員各位の研究課題の計画を募集し、応募のあった研究計画から優れた成果または有用な成果が期待できる計画を選定したうえで、研究推進助成

金を支給し、翌々年に成果の提出を義務づけ、書
学書道史の研究促進と振興に寄与していただくも
のです。「研究促進助成金制度／平成28年度募集
要項」「平成28年度研究促進助成金制度応募研究
計画書(ダウンロード)」がホームページに掲載されて
いますので、まず「一読ください」。

■ 研究期間：平成28年度～平成29年度

(平成28年9月1日～平成30年8月31日の二年間)

■ 研究促進助成金：一件につき30万円

(三件まで採択)

■ 申請受付期間：平成28年6月1日(水)

～6月7日(火)

■ 申請方法：ホームページ掲載「平成28年度研究
促進助成金制度応募研究計画書」(Word

形式)をダウンロードし、受付期間内に下
記問い合わせ先までEメール(添付ファイ
ル)で申請してください。

■ 問い合わせ先：shogaku@univcoop.or.jp

■ 問い合わせ方法：Eメールのみ

(「平成28年度研究助成問い合わせ」とい
記入ください。)

平成28・29年度の研究局は、「研究推進助成金」
応募者が見込まれることから、新たに福田哲之副
局長をお迎えし、永由徳夫副局長、権田瞬一・角
田健一両幹事には引き続き担当をお願いし五人体
制で運営して参ります。研究局に関するご意見が

ございましたら、何なりと上記問い合わせ先までご
連絡ください。

(研究局長 河内 利治)

編集 集 局

編集局では、10月の刊行をめざして、学会誌『書

学書道史研究』26号の編集作業に入りました。例年
のように査読を経て採用となった投稿論文をはじめ
め、前々号から新たに企画した「学会展望」につい
ても準備を始めたところです。今号の「学会展望」は
中国書法史関連の研究動向に関する記事の掲載を
予定しています。「投稿規定・執筆要領」については、
一部改訂のうえ、本学会のホームページのトップのイ
ンフォメーションの欄に、項目が設けられています。

第14期役員改選にともない、今年度から編集局の
担当者は以下の6名となりました。中村伸夫(編集
局長)、菅野智明・高橋利郎(副編集局長)、増田知
之・成田健太郎・六人部克典(編集局幹事)。査読
規定の見直しなど、いくつかの懸案事項について、目
下、編集局内で検討を進めているところです。学会
誌の編集に関するご意見やご質問は、中村または
菅野・高橋の両副編集局長宛てにお寄せください。

(編集局長 中村 伸夫)

事 務 局

このたび、事務局長として二期目を拝命しまし

た。一期目は、なかなか無案内が多く、皆様
にご迷惑をおかけしました。紙面をお借りして、こ
こに謹んでお詫び申し上げます。

前期の所信表明でも申し上げた通り、今期も「忘
己利他」の精神で職務を全うしたく思います。どう
ぞよろしくお願ひ申し上げます。

前期は事務局長と同時に、会報編集委員会委員
長も拝命しました。第28号の会報より企画・取材・
編集の陣頭指揮を執られたのは、会報編集委員会
副委員長・小川副事務局長でした。今期小川氏が
常任理事に就任されたこともあり、名実ともに会
報編集委員会委員長・小川副事務局長としてご尽
力いただけることになりました。しかしながら、会報
編集委員会副委員長・柿木原副事務局長および事
務局とは常に連携をとりながら、よりよい会報作り
をしていただけるものと期待してやみません。

学会のホームページ担当は、事務局が担っていま
す。携帯電話やスマートフォンでもきれいでたいへん
見やすく機能的です。会員各位においては、身近な
ところでも大いに活用いただけたらと思います。

最後になりましたが、即戦力として動いてくださ
るのが幹事です。前期より実務をともなった経験者
として、金子・野中・藤森各幹事には、今期も残留い
ただき、亀田・田村両新幹事に引き継いでもらえれ
ばと思います。

(事務局長 高城 弘一)

本会会員の採択課題に限ったが、会員が分担研究者で、代表者が非会員である場合には、※を付して代表者を末尾に付記した。複数の会員が関わる同課題については、当該課題のもとに代表者と分担研究者とを併記した。なお、所属の後の数字は、平成27年度のみ補助金の配分額。計画額には※を付した。

基盤研究(B) 継続(平成23) 東アジアに展開した儒教文化の視覚イメージに関する復元研究 菅野智明(筑波大学) ※代表: 柴田良貴(筑波大学) 4,420千円

基盤研究(B) 継続(平成24) 日中比較による書学資料の文献学的研究 代表: 菅野智明(筑波大学) 分担: 家人博徳(國學院大學) 矢野千載(盛岡大学) 山口恭子(都留文科大学) 尾川明徳(安田女子大学) 5,070千円

基盤研究(B) 継続(平成24) 古筆切の年代測定・顕微鏡観察・元素分析による散逸古写本の復元に関する研究 増田孝(愛知文教大学) ※代表: 小田寛貴(名古屋大学) 4,420千円

基盤研究(B) 継続(平成25) 在欧日本仏教美術の基礎的調査・研究とデータベース化による日本仏教美術の情報発信 赤尾栄慶(京都国立博物館) ※代表: KREINER Josef(法政大学) 4,460千円

基盤研究(B) 継続(平成25) 前近代中国における交通路と関津の環境史的研究 福原啓郎(京都外国語大学) 4,290千円

基盤研究(B) 継続(平成26) 概念表現と実体化表現から見た中国語文法史の展開―構文と文法範疇の相関的変遷の解明 大西克也(東京大学) 3,770千円

基盤研究(C) 継続(平成23) 本阿弥光悦筆和歌巻の特徴解明と伝光悦筆和歌巻の真贋鑑定法の確立 森岡隆(筑波大学) 910千円

基盤研究(C) 継続(平成24) 戦国秦漢簡牘文字の多様性と変遷に関する実証的研究 福田哲之(島根大学) 910千円

基盤研究(C) 継続(平成25) 「言語力」と「ミニケーション」能力を育成する書字教育カリキュラムの開発 青山浩之(横浜国立大学) 780千円

基盤研究(C) 継続(平成25) 近世後期讃岐・阿淡の書道文化―儒学者のかかわりを中心に― 太田剛(四国大学) 910千円

基盤研究(C) 継続(平成25) アジア的観点から見た(国史学)の比較思想史的研究―仏教文物の位置づけを鍵として― 佐藤文子(佛教大学) 1,460千円

基盤研究(C) 継続(平成25) 『李卓吾先生批評三國志』諸本の研究 中川諭(大東文化大学) 890千円

基盤研究(C) 継続(平成25) 隸書再発現のメカニズム―中国中期の石刻資料を端緒として― 東賢司(愛媛大学) 1,700千円

基盤研究(C) 継続(平成25) 小・中学校国語科書写における書字過程に着目した硬筆楷書教材開発及び授業開発 樋口咲子(千葉大学) 780千円

基盤研究(C) 継続(平成26) 北朝末隋代墓誌中に混在する自律的刻法の楷書新表現に関する基礎的研究 澤田雅弘(大東文化大学) 1,300千円

基盤研究(C) 新規 書の芸術性に関する術語と現代学者の解釈との比較研究 河内利治(大東文化大学) 1,300千円

基盤研究(C) 新規 学習者の実態調査に基づく左利き者に有用な書写教材及び授業開発に関する基礎的研究 小林比出代(信州大学) 1,230千円

基盤研究(C) 新規 漢字文化圏における骨トと亀トに関する総合的研究 近藤浩之(北海道大学) 1,950千円

基盤研究(C) 新規 『和漢朗詠集』諸本の集成と研究 山本まり子(お茶の水女子大学) 780千円

挑戦的萌芽研究 継続(平成25) 「手書き」が培うリテラシーに関する研究を推進するための基礎調査 鈴木慶子(長崎大学) 650千円

挑戦的萌芽研究 継続(平成26) 日本流入の中国書画に関する新旧収蔵家ネットワークの復元的研究 菅野智明(筑波大学) 1,170千円

挑戦的萌芽研究 継続(平成26) 唐宋時代の「巡礼」と移動をめぐる社会的研究 氣賀澤保規(明治大学) 1,430千円

挑戦的萌芽研究 継続(平成26) 近代書道史の再構築―美術の制度化を視野に入れて― 中村史朗(滋賀大学) 260千円

挑戦的萌芽研究 新規 行為と形象の間―近代の書における「臨書」の諸相をめぐる考察 萱のり子(大阪教育大学) 1,170千円

挑戦的萌芽研究 新規 『説文解字』における字体の定例 山元宣宏(宮崎大学) 1,430千円

若手研究(B) 継続(平成25) 中国明末期書画論の基礎的研究―董其昌理論の変遷を軸として― 尾川明徳(安田女子大学) 650千円

若手研究(B) 継続(平成25) ハンセン病患者・回復者による芸術文化活動の意味と芸術性 金貴粉(大阪経済法科大学) 650千円

特別研究員奨励費 新規 6〜8世紀の日本書道史における書風基準の構築―中韓の文字史料との比較を通して― 加藤詩乃(青山学院大学) 900千円

書の唯物論

亀澤 孝幸

ここ半年ほど、翻訳の仕事のために、筆墨硯紙に関する本を読み漁っていた。といつても、工芸美術としての文房具以上に私の関心を惹いたのは、書写用具の変遷と書史との連関である。

古典的研究としては、たとえば、潘吉星『中国造纸史』、木村陽山『筆』などが挙げられる。近年では、朱友舟『中国古代毛筆研究』が、主に文献的研究において新しい知見を示している。また、日本では、正倉院蔵筆の筆鋒構造および毛質について、詳細な調査結果が発表された『正倉院紀要』第三七号。これは、中国の筆について理解するためにも貴重な資料である。

書写用具の物質性は、もともと根本的なところで書の在り方を規定している。こうした唯物論的観点から、あらためて書史を考へ直したいと思っている。

「書」と「学」

紅林 幸子

研究テーマは「書体の変遷」。仮名文字の字母を求め、いくつかの文字関係を明らかにしてきた。仮名書作家としての興味から、例えば「氏と弓」「爾と尔」「無と无」と

いった類である。書体の変遷による字形の変化が著しい戦国時代から漢代の書写資料の中に、多くの手がかりを得た。

江戸時代から問題視されてきた「」の字母は、いまだ解明されていないが、私は「門」と確信している。しかしながら学会発表時支持されながらも論文として送り出せなかったのは、「中国古代音」の壁であった。発表後専門の先生から教えを頂ける機会があり、確信は深まったのだが、やはり一歩が踏み出せない。「書」は楽しいが、「学」は面白い。共に「苦しみ」と「律背反」はあるが……。

思いがけない出来事

古木 誠彦

文字通り忙殺された一年の3月末、思いついて休暇を取った。行先は台北。故宮博物院と中央研究院あたりで、ゆつくりとしたかった。行程も曖昧自由な小旅行である。

故宮で、自身いつものコースと「董其昌書畫特展」をゆつくりと見る。さて、そろそろ街に出るか、と思つた時に「故宮禁城及文物播遷映像特展」が目に入る。1903年以降の皇室を中心とした写真展。スーツ姿の溥儀と溥傑が二人でお道化している表情に、たまらなく心を打たれた。1920年

代のことである。

私の隣に中国人父子がいて、熱心に人物の説明をしていた。ついつい耳を傾ける。この清朝末期以降の情勢を、日本人としてどれくらい理解できるのだろうか、と思いがけず考えた。

多彩な會津八一コレクション

徳泉 さち

今年度より早稲田大学會津八一記念博物館助手として、学芸業務を担当することになりました。書家、歌人としてよく知られる秋艸道人こと會津八一ですが、早稲田大学の美術史学の礎を築いた研究者でもあります。当館は、會津八一が揮毫した書作品のみならず、彼が私財を投じて蒐集した古美術品を数多く収蔵しており、今はこの會津八一コレクションの全貌を掴むことが私の急務です。数の膨大さもさることながら、それ以上に蒐集品の幅広さに驚かされます。中国美術が多数を占めますが、それ以外にギリシャやエジプトなど世界各国の多彩な美術品が含まれています。こうしたコレクションを改めて目の当たりにし、自分の好奇心の向くまま自由に研究を展開した會津八一のエネルギーに圧倒される日々を送っております。

編集集後記

◆今春、色々と環境が変わったことで生活スタイルが変わりつつあります。時の流れや物事の見方も変わると思いますが、目の前のことを一つ一つ全身全霊で取り組んで参りたいと思います。(金子馨)

◆蓮田駅西口に、東北本線蓮田駅開業に尽力した先人の功績が記された「車站納地記念碑」(明治36年)がある。撰文並びに書は亀田鵬齋の子綾瀨の門人で久喜の漢学者である中島撫山。孫は『山月記』の中島敦。6年ぶりの会報委員です。よろしくお願ひ致します。(亀田絵里香)

◆今期より本誌編集作業に携わらせて頂けることとなりました。どうもありがとうございます。お役に立てるよう少しずつ進んでまいります。何卒宜しくお願い申し上げます。(田村南海子)

◆自然災害による悲報を耳にする度に自分の無力さを痛感します。会報委員も二期目の担当になります。少しでも皆さまのお力になれましたら幸いです。(野中直之)

◆会報編集集中に熊本を中心とする地震の報に接しました。罹災された方々の生活が一日でも早く回復することを心より願っております。今期も会報を担当することになりました。正確でより親しみやすい紙面を心がけてまいりますので、ご指示よろしくお願ひいたします。(小川博章)